

## C F C (Contemporary Farming Community) 研究会について

農業総合研究所 市田（岩田）知子

本会は関東在住の村研会員のうち、それまで比較的交流の機会が乏しかった若手の会員が中心となって、約2年前から活動が続けている研究会です。2ヶ月に一回のペースで、土曜日の午後、早稲田大学の会議室を借りて研究会を開いています。毎回2人の方が1時間ずつほど報告し、それぞれについて30分ほど皆で討論をするというパターンで、この6月17日で16回を数えました。

そもそも互いの関心領域を知り、交流を深めるという目的で発足したため、特にテーマや文献を決めるということはありませんが、今までのところ近年の農業や農山漁村をめぐる問題、あるいはその担い手である若者、女性、高齢者、家族に関する報告が多くなっています。農林漁業従事人口が高齢化、減少する中、農業、農村関連の研究者もまた高齢化、減少しているという見方もありますが、本会を見る限りそのような見方はあてはまらないでしょう。農村社会学者、農業経済学者を標榜している人以外にも広く呼びかけた結果でもあります。会員数は現在70名に達し、その半数以上は20代、30代で占めています。参考までに、この一年間の報告者、報告テーマを紹介いたします（敬称略）。

- ①杉原たまえ「沖縄における家族制農業の推転過程」
- ②木下英司「旧中国農邨・家族再考－青浦県徐窪郷徐窪村旧康家橋の事例を中心に－」
- ③渡辺啓巳「まちづくりと農業－みどりの街づくりを目指しての中間考察－」
- ④荒樋 豊「農家婦人の労働と生活意識－野菜作専業農家の事例を通して－」
- ⑤石原豊美「農家の家族変動について」
- ⑥松村和則「レジャー化する山村で「いえ」と「むら」を考える」
- ⑦小林公能「家族経営存立をめぐる中核と周辺」
- ⑧熊井治男「農村女性に関する調査研究の課題と可能性－三重県及び愛知県における調査結果から－」
- ⑨川手督也「農業者の就業条件をめぐる一考察」
- ⑩奥山正司、高梨薫「脳血管疾患患者の介護支援態勢及び介護者の社会活動性の変化－都内3病院から自宅退院した者への追跡調査を通して－」（奥山）、「高齢者の健康に寄与する家族の保健・介護的支援機能－大都市・農村の比較研究－」（高梨）
- ⑪相川良彦「農村社会学諸説の特徴と農村諸集団の位置づけ－1960年代以降の農業経済畑の研究を素材として－」
- ⑫熊谷（松田）苑子「村落社会における時間意識の変容－高度経済成長期の事例－」

なお、C F Cというのは表題に書きましたように「現代農村社会」の略ですが、真ん中のFには漁村（Fishing）や山村（Forest）の意味もこめられています。本会にご興味がある方、参加したい方は下記のいずれかの方にご一報ください。若手の方も自称「若手」の方も歓迎いたします。

代表：相川良彦（農業総合研究所）

事務局：叶堂隆三（早稲田大学）、小野澤章子（明治学院大学）、吉野英岐（農村生活総合研究センター）